



2019春闘シリーズ⑦ 第2回 団体交渉を開催！

正当な成果配分を強く求める！！

組合側 要求主旨

- 東日本大震災から8年が経過。鉄道にも甚大な被害が発生したがJR労働者の奮闘により今日の経営状況を生み出している。復興はまだ道半ばである。改めて復興、復旧に向けて鉄道労働者にとっての課題を明確にして、その最前線で奮闘していく。
- 基礎収入増の要因として2019年度下期相鉄線乗り入れ、2020年春高輪ゲートウェイ開業が控えているが、新しい価値創造に果敢に挑戦しているJR労働者の姿に対してもしっかりと賃金の還元を求める。
- 人件費は人事・賃金制度見直しにより一時的に上がっているが基本的には右肩下がりである。一方で社員一人にかかる業務量は増加している。社員一人ひとりの生み出す付加価値というのは非常に大きくなってきている。この生み出した付加価値に対して労働側への配分の率は下がってきている。
- 私たちの要求は『一律6000円』である。パーセントではなく円の要求だ。昨年の賃金改定はパーセントであり、配分は若手に厚くということであった。労働組合の要求とは違った。労働組合が申し入れをおこない、団体交渉を行っている。要求を歪曲した回答は認められない。『6000円の一律ベア』を要求しているのであって、色々な形で還元して欲しいという要求はしていない。
- 増収減益は対前年によるもの。近年の決算状況はリーマンショックや東日本大震災等の自然災害を乗り越えて利益の高止まりで移行している。今年度の決算は2016年度の業績を越えるほど近づいている。中長期を振り返った正当な成果配分を強く要求をする。

職場からの声で満額回答を勝ち取るう！